



令和8年

熊本地震

10万8100戸が断水に

被災地での工事の様子。こわれた水道管を、応急処置している

水道水は「蛇口から出てくるもの」というイメージがあります。しかし、もう少し詳しく見てみると、川などの「水源」から、水をきれいで安全な水道水にする「浄水場」、水道水を貯める大きなタンクである「配水池」という施設があり、さらに施設どうしや、皆さんのおうち、学校までを「水道管」でつないで、最後に蛇口まで水を届けています。

いつも順番どおりに流れている水が、なんらかの理由で途中でとまると、その先には水がいき

令和8年7月28日16時27分頃、熊本県熊本地方を震源としたマグニチュード7.1（暫定値）の地震が発生し、熊本県の宇城市、氷川町で震度7を観測しました。この地震により、最大で約10万8100戸が断水（蛇口から水が出なくなること）しました。

水道水が蛇口に届くまで

水道水は「蛇口から出てくるもの」というイメージがあります。しかし、もう少し詳しく見てみると、川などの「水源」から、水をきれいで安全な水道水にする「浄水場」、水道水を貯める大きなタンクである「配水池」という施設があり、さらに施設どうしや、皆さんのおうち、学校までを「水道管」でつないで、最後に蛇口まで水を届けています。



地震により、地割れや浮きしずみがおき、水道管に影響する

地震の被害 今回の「令和8年熊本地震」のゆれでは、この水道管が被害を受け、広いエリアで断水が起こり

わたらなくなってしまう。例えば、施設や水道管が災害でダメージを受けたり、古くなって水が自然にもれてしまったりすることです。

対策を進めています

実は、熊本県熊本地方では、10年前にも「平成

ました。なかでも、「配水池」から家などを結ぶ水道管（配水管）に、被害が多かったとみられています。

配水管は、1本あたり4〜6m前後の長さがあります。何本もつなぎあわせることで、水を必要ところまで届けています。しかし、「令和8年熊本地震」では地面が大きく動いたことで、あちこちの配水管のつなぎ目がはずれ、水がもれてしまいました。



28年熊本地震」という大きな地震がありました。この時には、最大で約44万5900戸が断水しました。

「令和8年熊本地震」とは震源地がちがうため、単純には比べられませんが、今回の地震では断水戸数が4分の1以下になりました。理由の一つは、10年の間に、水道管のつなぎ目を外れにくくする「耐震化」工事が進んだからだと考えられます。

水道局やたくさんの方が、過去の地震を教訓に、災害につよい水道にするための工夫を重ねています。